

# 発掘ニュース

第 3 号

昭和 57 年 11 月 1 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団

## 龍門寺遺跡

発掘調査は全体の約4分の1ほど進行し、遺構、遺物ともにおびただしい数が検出されています。そのなかでも第2号でお知らせしました古墳やその東約25mのところ検出された周溝状遺構などは今後の調査によって解明されていくものです。

遺物については、その大半が弥生時代中期前半の土器が主体をなすことは前号までに紹介したとおりです。そのほか持異なるものとしては、これまでに、縄文時代早期の擦糸紋土器あるいは、古墳時代前期の複合口縁の壺やS字状口縁のカメなど、いわき市内においては、今まで出土例の少ない珍しい土器がみつかっています。

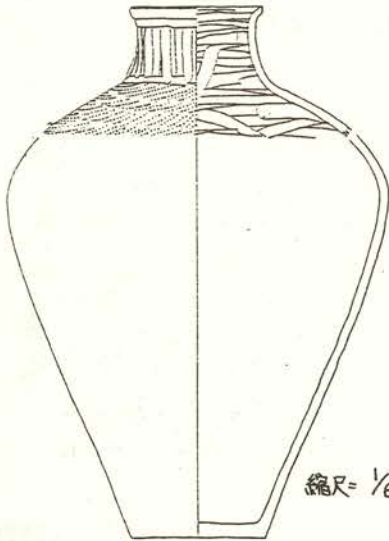


南からみた1号墳



# 弥生土器のいろいろ — 龍門寺遺跡出土 —

弥生時代の生活様式は、壺・甕を主体とし、この他に椀・蓋・高杯が同居する場合があります。文様や器形(かたち)は、地域や時期によつて変化します。特に東北地方では、縄文時代「晩期」の伝統を受けた「磨消縄文」の手法が強く残ります。



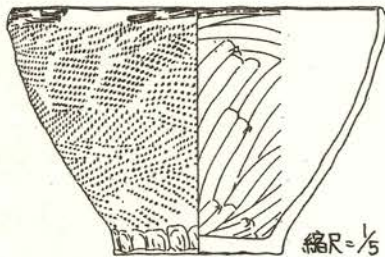
## 壺

壺は、米や種<sup>種</sup>穀などを貯蔵する土器です。口縁部が広い壺、頸部が細い壺、大型、小型の壺などの種類があります。様々な文様や赤い色で土器を飾ることが多く、また、頸部に「人の顔」の文様をつけた壺(顔面付土器)もあります。

左の図は、高さ約40cm以上の大型の壺です。口唇部だけが1cmほど厚くなり、頸部は無文で両面が丁寧に磨かれています。肩部から胴部には「縄文」が施されています。

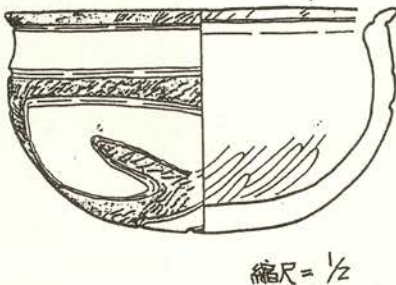
## 甕

この甕は口径25cm、器高16.3cmを測り、器高より口径の方が大きく鉢にちかいかたちをしています。この時期の甕のかたちには、口縁部が左図のように内ねん(内側にまがる)するものやその反対に外反(外側にそりかえる)するもの、あるいは直立するものなどそのようすはバリエーションに富んでいます。



## 椀

椀は食べ物を盛った土器です。このような形の土器は、縄文時代晩期ごろから出て来て、弥生時代中期には一般的となります。左の土器は、当時流行した磨消縄文手法で文様を描き、縄文の部分に「朱」を塗ったものです。龍門寺遺跡からはこのような朱塗り土器が数多く出土しています。

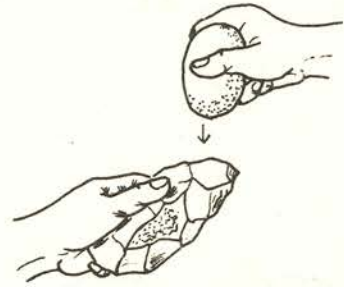


# 作り方シリーズ 2 一石器一

石器には、ハンマーで打って作る打製石器(たせいせき)と、砥石で擦って作る磨製石器(ませいせき)とがあります。ここでは、打製石器の中の石鏃(せきぞく)について見ていきましょう。

## ① 原石(石鏃のもと)の石を割る

割り方には、右のように河原石などをハンマーとして直接打ちつけて割る直接打法(ちやくせつたほう)と、原石に鹿の角などをあて、その上からハンマーで打つ間接打法(かんせつたほう)の二つがあります。

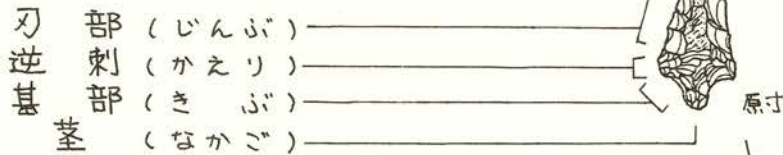


## ② 刃をつける

①で割れた石くず(フリク)から適当な大きさのものを選び、①と同じ要領で石鏃の形をつくります。そして、それに、先をとがらせた鹿の角などをあてて瞬間的に力を入れて割る押圧剥離(おうあつはくり)をすることで刃がつきます。



## 石鏃各部の名称



## 石鏃の使用法

石鏃は「矢、根石」などと呼ばれるように、鹿や猪などを射る弓矢の先につける武器です。また、モリの先端につける例も貝塚から報告されています。

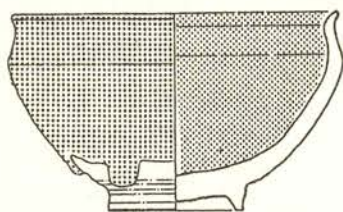




# 龍門寺遺跡出土の遺物 ー出土状況ー

## 鉄釉天目茶碗 (江戸時代)

天目茶碗は、14世紀頃現われた茶道具です。



縮尺= 3/5

左の図は、強く外反する口唇部と狭い口縁部をもち、肩部が「くの字」状に曲がるのが特徴。底には高台がつきます。黒っぽい鉄釉(うわぐすり)は、内面全体と外面下胴部に施され、口唇部は淡い茶色をしています。

## 北宋銭

中国の貨幣(北宋<960~1126>の時代につくられた貨幣)で日本にもたくさん輸入されている。



1

2

縮尺= 1/2

1 「<sup>魚</sup>寧元寶」 1068年鑄造

2 「元祐通寶」 1093年鑄造

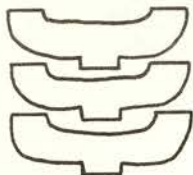
## 読者の声

龍門寺遺跡につつま 平三中3年 比佐泰之

いわき市には多くの弥生の遺跡がある。岩間の輪山遺跡、好間の上野遺跡などそのほかにもいろいろあつて、龍門寺もその一つである。今のところでは、どういふ性格の遺跡で、どの範囲まで広がっているのかは、まだわかつていないが、これからの発掘調査で明らかになっていくと思う。この遺跡では、何週間か前、古墳の石室が出土して来つた。それとともに、鉄剣が出土している。そのほか、玉類、鉄鏃なども出土するかもしれない。また、この遺跡からは、モミ跡のついた土器が数点出土している。このことから本遺跡では、稲作を行つていたことがわかる。とにかく、今後の発掘調査での新しい発見を楽しみにしています。

## 《お知らせ》

11月上旬から、遺跡の北側で現在龍門寺の駐車場となつてゐる平らな所を調査することになりました。部分的に深く掘る場所もあり危険ですので『立ち入り禁止』させていただきます。



編集  
(財)いわき市教育文化事業団

(電話) 0246-24-2803  
龍門寺遺跡調査係

とじておきまじよう